

分離肺換気下低侵襲心臓手術中の低酸素状態における近赤外線脳酸素モニタによる

脳組織酸素飽和度の機種による反応性の違いに関する検討

◆研究の目的と概要◆

当院では、低侵襲心臓（僧帽弁形成、三尖弁形成、心房腫瘍）手術で起こる低酸素状態での近赤外線脳酸素モニタによる脳組織酸素飽和度（ rSO_2 ）の機種による反応性の違いを調べています。本研究では、より脳の低酸素状態を検出できる rSO_2 の機種を検討し、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2020年4月から、2025年3月までの間に、低侵襲心臓（僧帽弁形成、三尖弁形成、心房腫瘍）手術を受けられた方。

◆研究に使用される情報・試料◆

- 1.1 患者背景：年齢，性別，身長，体重，術式，American society of anaesthesiologists physical status，合併症（高血圧，脳梗塞，糖尿病，心筋梗塞の既往，腎機能障害，精神神経疾患の有無，心房細動），術前合併症と投薬，呼吸機能検査，心電図とその所見，胸部レントゲン写真とその所見
 - 1.2 経胸壁心エコー検査（LVDD，LVDS，弁膜症種類程度，推定肺動脈圧，左室駆出率）術前検査（Hb，血糖値，HbA1c，クレアチニン，eGFR，GOT，GPT，K，Na，CL，Ca，PT，APTT，血小板数）
 - 1.3 術中所見：装着した rSO_2 モニタ機種，手術時間，麻酔医時間，人工心肺時間，OLV 時間，人工心肺後の OLV 時間，麻酔導入前血液ガス分析による動脈血 PaO_2 ，Hb， SaO_2 の値と rSO_2 （両側）初期値， SpO_2 初期値，カテーテル挿入時 $ScvO_2$ ， SvO_2 初期値とこの時点での SpO_2 ， rSO_2 値，血液ガス分析による動脈血と上大静脈血，肺動脈血の PaO_2 ，Hb， SaO_2 の値，心機能（CCI），人工心肺離脱後のカテコラミン使用量（それぞれノルアドレナリン，ドブタミン，ミルリノン，ピトレスシンの持続最大量最小量）人工心肺後初回 OLV 施行前と中の最低 SpO_2 値での SpO_2 ， rSO_2 ， $ScvO_2$ ， SvO_2 ，CCI 値，人工心肺後の OLV 前の血液ガス分析による動脈血 PaO_2 ，Hb， SaO_2 の値，OLV 後の血液ガス分析による動脈血 PaO_2 ，Hb， SaO_2 の値総フェンタニル投与量，総レミフェンタニル投与量，総プロポフォール使用量，使用した吸入麻酔薬，使用したミダゾラム量，手術時間，麻酔時間，出血量，尿量，輸液量，輸血量，総 OLV 時間，人工心肺後 OLV 時間
- 術後項目：人工呼吸時間，ICU 滞在時間，術後 ICDSC スコアとせん妄の有無，退院までの日数

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2026年3月20日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録等からの情報を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

麻酔科 研究責任者 入江洋正

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
(他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。)
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明